

平成16年度 第6回（平成16年12月1日）図書館運営協議会 会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員（7名）

小杉山会長・中多副会長・加藤委員・奥津委員・埜崎委員・日高委員・山本委員

図書館側委員（4名）

鹿島中央図書館長・広田奉仕係長・坂井視聴覚係長・林田戸山図書館長

図書館事務局

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

2. 場所 北新宿図書館

3. 開会

【小杉山会長】

ただいまから平成16年度第6回図書館運営協議会を開催いたします。本日の議題は、協議事項2件です。はじめに、「ボランティア・NPOとの連携」について、事務局から説明をお願いします。

【秋山管理係主査】

「ボランティア・NPOとの連携」について資料説明。

【小杉山会長】

図書館運営の今後のありかたを検討するにあたって、ボランティアやNPOとの関わりは重要な問題です。みなさんのからご疑問、ご意見はありますか。

【中多副会長】

一番の問題は地方公共団体の財政悪化です。定数は削減されるのに業務量は増えている状況をどうすべきかということ。新宿区では図書館奉仕員制度をとっていますが、更新しても契約期間は5年で終了します。これではせつかくの経験の積み重ねが生かされません。ボランティアについては国を挙げて奨励されていますが、問題点としては、ボランティアはいつでも辞められる。継続性

についても個々のボランティアには責任はありません。ボランティアを常に確保し、マネジメントしていく行政側の難しさがあります。

NPO高知子ども図書館（県が設営してNPOが運営）を見学してきました。開館から5年目の図書館です。職員3名で図書費が年間約70万円です。会員制で、会員が会費を払い、寄付金をもらって運営しています。運営は財政面で厳しいことを感じました。

指定管理者制度については、たとえば山梨県立図書館の職員だった方が、自分が指定管理者制度を利用し山中湖村立図書館「山中湖情報創造館」の館長になった例があります。専門性のある方が行っているケースです。

※PFIについて。桑名市の図書館がPFIで建てられました。図書館では全国初のケースです。この10月に開館しました。市民の評判は良いようです。管理運営には民間会社の図書館流通センター（TRC）があたっています。正規の職員6人の図書館員は実際のサービスは担当せず、管理部門の仕事に従事しています。

指定管理者制度は毎年チェックが入ります。そこで働く人が自立できる給料がもらえるのが問題。安い給料では人が定着しません。図書館サービスが低下してしまう恐れがあります。

※PFI＝プライベート（民間）ファイナンス（資金）イニシアチブ（主導）の頭文字の略。民間主導で行う公共事業方式のこと。

【小杉山会長】

いろいろ現状について中多副会長からお話いただきました。図書館ではボランティアを活用していますが、特定の分野にだけ担当しているのが現状ではないか。

【鹿島委員】

財政が悪化したからボランティアを使うという発想ではありません。行政だけにすべてを任せるのではなく、自分たちの地域は自分たちでかかわっていきたいという住民の意識が成熟してきたということです。

私たち公務員は、住民の付託のもと、様々な行政の仕事をしてきましたが、行政がすべてを独占する時代は終わり、様々な知識や経験をもった人との協働もありうるし、あるいは彼ら独自の活動もあります。平成7年の阪神大震災で行政の限界が明らかになりボランティア・NPO活動が大きな注目を集めました。

NPOは必ずしも企業をリタイアした人だけでなく、若い人でも参加する人は増えています。行政の閉鎖性が今まで言われてきました。ボランティアが入

ってくることへの警戒もありました。ボランティアが持っている利用者の視点が入ることで、図書館が鍛えられていくのではないのでしょうか。これからは図書館サポーターを支援していく力をつけたいと考えています。

NPOについて。高知県の子ども図書館の例は施設を無償で県が提供し、それをNPOが図書館を運営しています。

純然たるNPO図書館は財政的にも大変だが、高知県のケースは私立図書館であって、ここでは公共図書館の中におけるNPOの役割を議論いただきたいと思います。

【中多副会長】

一つ補足します。図書館でボランティアをする人が、力をつけてきています。山梨県で実施された全国図書館大会でボランティアの集いが開かれました。読み聞かせや昔話をするボランティアの方が大部分でした。いまのボランティアは自己実現を図ることを目的に活動される方が主流です。

図書館サイドが主体的にボランティアにかかわり、ボランティア任せにせず、活動には図書館が責任を持つことが必要です。

【奥津委員】

自己実現のためとはどういうことでしょうか。今、動物園や博物館で、リタイアした人で時間や生活に余裕のある方が活動していますが。生活の中で生きがいや張り合いを求めるということでしょうか。

【中多副会長】

自己実現は人間にとって大切なものであり、自分の持っているものが人のため、社会のために皆さんに役に立つほど嬉しいものはない。そのために図書館があり、教育施設があり、福祉施設があるわけです。場を提供する側がよほどしっかりしないとイケません。

お話会でもボランティア任せにしているところも結構あります。これでは専門性は育ちません。図書館側が積極的にかかわっていかねばなりません。

【奥津委員】

ボランティアの読み聞かせについて、本の選択は図書館側のチェックは入るのでしょうか。

【広田委員】

中央図書館では第2・第4土曜日と日曜日の読み聞かせはボランティアに担当していただいています。年間計画をあらかじめ提出してもらい、会の年報で報告してもらっています。定期的に会合も開催しています。

【奥津委員】

読み聞かせのボランティアの方は組織化されているようですが、一般業務のボランティアは個人的な登録であってグループ参加ではないのですか。

また、ボランティア同士の交流についてはどうですか。

【広田委員】

鶴巻図書館や中町図書館ではボランティアと職員の会合を持っています。

【佐藤管理係長】

ボランティアは「友の会」には入っていません。ボランティア同士の横のつながりは現時点ではありません。ボランティアは自分の都合で参加しており、交流等は今後の課題です。

【鹿島委員】

ボランティアには図書館サイドが主体的にかかわることが大事です。ボランティアの側でも一時的に行き過ぎることがあるかもしれません。図書館の考えや方針を伝えることで、こうした傾向も適切に誘導することができます。こうした施設は住民の付託で預かっているものです。ボランティアとして参加してもらうことで、住民が自分たちの施設だと実感し、図書館をより大切に使うきっかけにもなります。

今はコーディネーターを各図書館に置けていますが、いずれは自分たちで活動できるようにボランティア活動の発展のための支援はしっかり行ってきたい。

【中多副会長】

NPOについて心配な点があります。高知子ども図書館では現在かかわっている方は非常に高齢化が進んでいます。継承者が育っていません。

【鹿島委員】

後継者の問題は図書館に限らず永遠の課題です。その組織、組織で後継者を育成しなければなりません。

まだ生まれたての組織である非営利の活動が、もっと広がっていかないと後継者も育っていきにくい。もっと年月が必要でしょうが、徐々に広がっていくと思います。

【加藤委員】

社会教育施設に限らず地域センターにも学校にもボランティアを受け入れる窓口があります。ボランティアをやりたい人が自分が専門性をもっているつもりでも、そうでない場合もあり、コーディネーターの役割は重要です。図書館ボランティアでは、本の返却は単純な作業で飽きてしまうのではないのでしょうか。

ボランティア同士で横のつながりをつくることも、活動を継続させるために重要です。自発性、継続性に加え責任性もボランティア活動に必要なのではないのでしょうか。

【中多副会長】

ある職員に支障があれば他の職員がカバーするが、ボランティアの場合、他のボランティアに代わってもらうための調整を職員がしなければなりません。シフトが取れるような工夫をコーディネーター側でする必要があります。

【佐藤管理係長】

今の段階では、ボランティアに責任を持たせるような作業はさせていません。今はまだ、ボランティアに対して我々の側も認識の甘さがあります。

図書館サポーターをやってよかったと思うのは、図書館サポーターで読み聞かせを希望の人に研修を実施しましたが、2時間のところ3時間たっても帰らない人が多いほど熱心なことでした。サポーター制度が始まって、まだ1年も経っていません。集約もまだできていない状態です。もう少しお時間をいただきたい。

【小杉山会長】

サポーターへの保険はどうなっていますか。また、プライバシーや人権擁護に関してはどうでしょうか。

【佐藤管理係長】

サポーターは社会福祉協議会の保険に入っています。金額的に500万円までの保障です。ボランティアは個人情報にかかわる分野には参加させていません。カウンター業務も担当させません。

【鹿島委員】

新宿区の個人情報保護審議会から、ボランティアは個人情報に触れる業務には参加させないよう言われています。

今年6月からのインターネット予約導入に際しても、パスワード等の個人情報の蓄積のため、審議会に諮っています。

【小杉山会長】

引き続き、「管理運営の多様化」について協議を行います。

【秋山管理係主査】

「管理運営の多様化」について資料説明。

【中多副会長】

管理運営の多様化の資料、民間への業務委託の欄では、メリットとして一般職員が管理・企画部門に専念できるとあるが、事務室の中で基幹的サービスに専念できることは、図書館行政にとってメリットと言えるのでしょうか。

最も住民と接する部分を委託してしまって、管理はできても将来のことを考えられるのだろうか。部分的な委託はありうるが、窓口サービスは重要です。全部委託していいのか問題です。

【鹿島委員】

現在、新宿区で委託を検討しているわけではありません。ここの議論は、誤解のないよう申し上げますが、多様な管理運営形態について検討・協議することです。

図書館の管理運営にはいくつかの形態があり、それぞれメリット・デメリットを挙げているのが本日の配付資料です。

選書・重要なレファレンス・苦情対応窓口は職員が行っていても、平易な返却処理、利用者カード作成などは委託しているところも増えてきています。財政の問題があることは否定できません。しかし、職員の力はもっと別のところに投入すべきだという意見もあり、無視できません。税金で運営する以上、効率的な運営方法も考えなければなりません。非常勤だけで運営できる館があってもいいし、部分的な委託も考えていい。NPOへの委託も考えられるでしょう。最終的なサービスの判断は、どこが良いかそこは利用者を選択させればいい。

競争状態にもっていくことで公共図書館の活性化も図れるのではないのでしょうか。いずれ検討する時期には、専門性を確保し、プライバシーの擁護も確保しながら検討していく必要があるでしょう。ただ現時点では、委託については検討していません。

多様な人材、多様な資源を使って限られた予算の中で行っていきます。最終的には利用者の目線で判断してもらえる幅広い選択肢を用意したい。

【中多副会長】

図書館奉仕員制度の評価はどうでしょうか。引き続き採用するのですか。

【広田委員】

非常勤職員（再雇用）が退職したときに、奉仕員に切り替えています。

【中多副会長】

奉仕員は5年で終了だが、図書館サイドで評価し、継続できるのなら継続できないのでしょうか。あるいは5年後に再度試験を受けて合格すれば継続できるとか。検討していただきたい。せっかく蓄積した経験・知識が無駄になってしまうのでは、区民にとっても損失です。

【鹿島委員】

平成16年度は23区中11区が委託を導入しています。平成17年度はさらに増える状況です。新宿区でも委託を導入すると、奉仕員の行き場がなくなってしまいます。一方、奉仕員募集には多くの受験者がいるのも事実です。中野区では非常勤職員が中心になり、NPOをつくり図書館を運営している例もあります。図書館奉仕員の雇用期間は5年であると区で決められています。ご指摘の件については検討はしていきたい。

【山本委員】

（配布資料の）「新宿区区民意識調査」は無作為抽出ですか。

【佐藤管理係長】

そうです。年齢・男女比を考慮したうえで実施しています。お配りしたのは図書館に関する部分のみの抜粋です。

【山本委員】

「新宿区区民意識調査」の今後の地域図書館の運営方法で「その他、わからない、無回答」が3割以上もいました。図書館を利用していない方の意見ではないかと思った。利用者を増やすことも課題ではないでしょうか。

【佐藤管理係長】

インターネットによる予約受付を今年6月から始めましたが、区民よりも区外の方の登録が増えています。区民の登録を増やすことが必要です。

【加藤委員】

指定管理者制度等を利用して民間委託になったときに、ボランティアや区民との協働はできるのでしょうか。

社会教育会館が委託になった時に部屋貸し業になってしまった前例もあります。

【鹿島委員】

現在委託しているわけではないので、予測で言うしかありませんが、図書館の基本理念を持った上で、どこをどの程度委託するかということです。民間委託する場合、ボランティアは入りにくくなるかもしれませんが、読み聞かせなどは変わらずにできるのではないかと思います。

【佐藤管理係長】

我々も専門性を有した文化の拠点としての図書館の重要性を認識しているので、どんな運営形態になるにしても貸本屋になることはありません。

【中多副会長】

日本の公共図書館は2003年で2759ありますが、私立図書館は25しかありません。

ほとんどが公立図書館です。数少ない中に東京子ども図書館があります。ここでは若い人たちを育てる研修に力をいれています。

図書館員を育成する研修はどのように行われているのでしょうか。

【小杉山会長】

NPOが上手く活用されていません。今の私立の図書館は個人の篤志家に任されています。

【中多副会長】

図書館1館当たりの人口は、先進国の中で日本は最低です。1館あたり4万人です。そのなかでも最悪は政令指定都市です。1館あたり11万以上います。

【小杉山会長】

図書館数では東京都ほど恵まれているところはありません。

なかなか難しい問題で簡単には結論はできませんが、皆さんのお力も借りてまとめていきたいと思えます。お考えなりご意見なりがあれば事務局までお寄せください。

【鹿島委員】

管理運営形態をなにか一色に塗りつぶそうというわけではありません。多様な形態を考えていかなければいけないというのが主旨ですので、ご理解いただきたいと思えます。

【小杉山会長】

第6回図書館運営協議会を終了いたします。